

令和5年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	りんご「大夢」の裂果を軽減するための摘果時期
【要約】りんご「大夢」は、落花 60 日後を目安に仕上げ摘果を行うことによって収穫期の裂果を軽減できる。	

1 背景とねらい

本県育成のりんご「大夢」は 11 月上旬に成熟する赤色品種である。大玉で果汁が多く、みつ入りおよび食味が良好なことから奨励品種とし、特に沿岸部で栽培されている。

令和 2 年の研究成果では、正品率向上のための摘果強度として 1 果 / 5 頂芽が適することを示したが、一方で果実が大きくなるほど外部裂果が多く発生することが課題として残った（参考資料イ）。

そこで、「大夢」のさらなる安定生産技術の確立を目的とし、摘果による裂果軽減技術を明らかにする。

2 内容

- (1) 「大夢」の仕上げ摘果は、落花 60 日後を目安に行うことにより、落花 40 日後と比較して、裂果を軽減できる（図 1）。
- (2) 落花 60 日後に摘果した区は、落花 40 日後の区と比較して、果重が小さくなる傾向がみられる（表 1、図 2）。
- (3) 落花 60 日後を目安に摘果を実施した場合、落花 40 日後と比較して、収穫した果実の品質に差は見られない（表 2）。

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 JA 営農指導員、農業普及員
- (2) 期待する活用効果 「大夢」の裂果軽減により、高品質果実の安定生産につながる。

4 留意事項

- (1) 本試験では大夢/JM7（平成 27 年定植）を各試験区 3 樹ずつ供試した。
- (2) 本試験は、粗摘果を落花 20 日後、仕上げ摘果を落花 40 日後と 60 日後に 1 果 / 5 頂芽を目安に実施した。
- (3) 仕上げ摘果時期を遅らせたことによる花芽率への影響は見られていない（データ省略）。
- (4) 収穫は、平成 27 年度岩手県農業研究センター研究成果（参考資料ア）に基づき実施した。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
 - (R4-06) りんごオリジナル品種などの省力・低コスト・高品質安定生産技術の確立
 - (1000) オリジナル品種の安定生産技術の確立 [R4-R10/県単・民間委託]
- (2) 参考資料及び文献等
 - ア (H27-普-02) りんご「大夢」の収穫適期判断
 - イ (R2-指-22) りんご「大夢」の正品率向上のための摘果強度

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

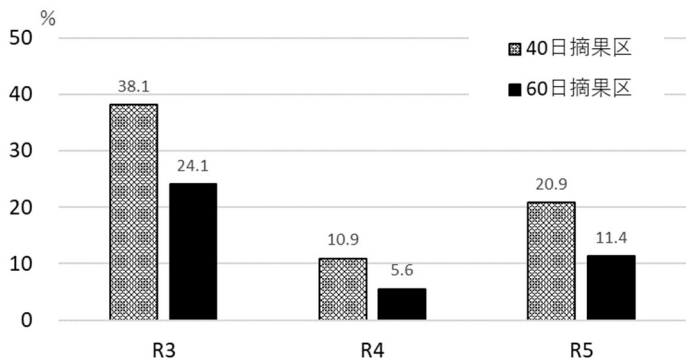


図1 摘果時期別の裂果率（外部裂果）（R3～5）

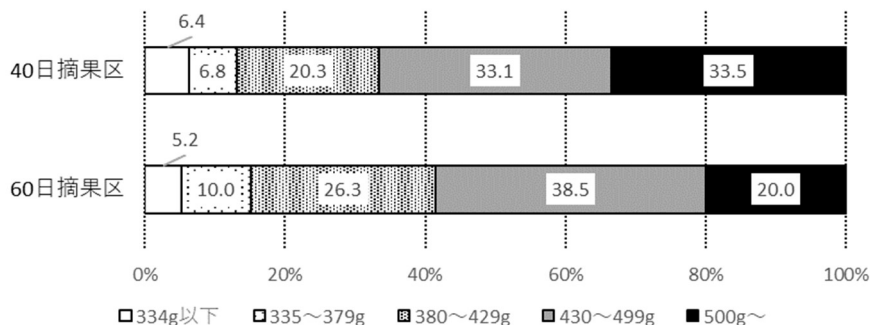
※1 全収穫果（障害果含む）を調査し、裂果あり・なしで集計

表1 摘果時期別の平均果重（R3～5）

		R3	R4	R5	平均
果重※1 (g)	40日摘果区	464 *	502 n.s.	489 n.s.	485 n.s.
	60日摘果区	449	497	471	472

※1 果重は各試験区3樹の全収穫果（障害果含む）の平均

※2 t検定により、*は5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なし



【参考】

宮古地域大夢栽培研究会の
出荷販売規格(大きさの基準)

標準 3kg詰	
1段詰	
1箱玉数	選果基準(g)
6	500
7	430
8	380
9	335

図2 摘果時期別果重の割合（R3）

表2 摘果時期別の果実品質（R3～5 平均）

試験区	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	地色 指数	果皮色			みつ入り 指数	ヨード反応※4 指数
						着色指数※2	濃色割合	着色割合※3		
40日摘果区	539.8	13.9	14.8	0.44	3.1	5.6	24.3	82.2	1.3	1.9
60日摘果区	517.5	13.9	14.8	0.45	3.4	5.6	21.9	84.6	1.2	1.6

※1 各年調査において、各区10果を供試

※2 着色指数：ふじ表面色用チャート 1（淡）～6（濃）

※3 着色割合：果皮色指数1以上の割合

※4 ヨード反応指数 0（無）～5（全染色）

【担当】園芸技術研究部 果樹研究室